

全世界からの心あたたまる大きな支援 子どもたちへのエール



▲国際的な NGO からも多大なご支援をいただき子どもたちの教育環境が再生していった。
足繁く町を訪れ、子どもたちを励まし続けてくれたサッカーの長谷部誠さんとボールを追いかける子どもたち。

写真提供 ©日本ユニセフ協会 /2011/satomi matsui

津波に何もかも流され、一時は絶望のどん底にいた私たちに寄せられた寄付や寄贈は枚挙にいとまがない。大企業や国際的な NGO からの寄付もあれば、子どもたちがお小遣いを出し合って集めてくれた募金もあった。私たちが思いやるあたたかいメッセージや復興を祈る千羽鶴…。全世界からいただいた有形無形のご支援に「私たちはひとりじゃない」「あきらめずにがんばろう」と何度思ったことだろう。それが“エネルギーのもと”となり、私たちは頑張ることができた。

町の未来を担う子どもたちにも、多くの心あたたまる支援が寄せられた。当たり前の日常を奪われた子どもたちを心配し、少しでも心なごむ環境をと、民間、公立を問わず、教育施設や遊具の再建などをご支援いただいたほか、各界のプロスポーツ選手たちが次々と子どもたちのもとを訪れ、彼らの心に残る交流の機会をいただいた。

全壊した南三陸町学校給食センターは、NGO や自治体からのご支援により 2018（平成 30）年 3 月に再建され、町立小学校 5 校、中学校 2 校の子どもたちに、より安全で安心な学校給食の提供を開始することができた。

また、震災直後から町内の子どもたちに絵本の読み聞かせをしたり、おもちゃや農作物などの差し入れのために通い続けてくれたボランティアもいた。